

1 観光・MICE推進プログラムの概要

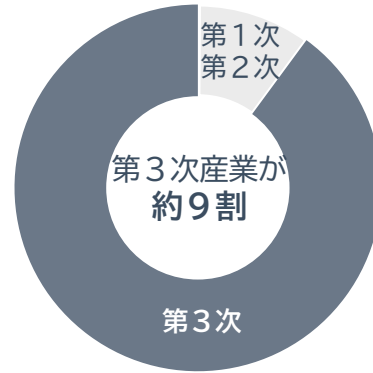
福岡市では、平成30年9月に制定された福岡市観光振興条例に基づき、観光・MICEの取組みの方向性を定めたアクションプランとして「観光・MICE推進プログラム」を策定し、取組みを進めています。第3期目となる今回の計画期間は令和8～10年度となっています。

観光・MICEに取り組む意義

福岡市が持つ魅力的な地域資源を磨き上げることは、歴史・文化の継承に加え、まちの魅力の更なる向上につながり、観光客だけでなく市民にとっても重要な意義があります。

また、観光・MICE産業による経済活動はすそ野が広く、福岡市は第3次産業が約9割を占める産業構造であり、交流人口の増加が地域経済の活性化につながるため、観光・MICEの推進は重要な取組みとなっています。

【図1】福岡市の産業構造



（「令和3年経済センサス-活動調査」
（総務省・経済産業省））

2 観光・MICE推進プログラム（令和5～7年度）の成果と課題

第2期プログラムでは、3つの方向性に基づき取組みを進め、その成果と課題は以下のとおりです。

— 方向性 — — 取組成果 — — 残された課題 —

(1)
九州の
ゲートウェイ
都市機能強化

高付加価値旅行者などの新たな顧客層の誘致や、西のゴールドルートを取組みなどによる広域周遊観光の推進などに取り組みました。

欧米豪の延べ宿泊者数は増加傾向ですが、その割合は少ないほか、高付加価値旅行者が求めるサービスが不足しています。

(2)
MICE都市
としての
プレゼンス
向上

質の高いMICEの誘致に向け、住吉神社能楽殿など新たなユニークベンチャーを開拓しました。また、平日への旅行需要の分散化に寄与しました。

国際会議への外国人参加者数がまだ少ない状況にあります。また、魅力あるユニークベンチャーが不足しているほか、市民がMICEに関わる機会が少ない状況です。

(3)
地域や市民
生活と調和
した持続可能な
観光振興の
推進

自然や歴史、伝統文化などの地域資源を活かした受入環境の充実や地域の魅力向上、回遊促進に取り組みました。また、宿泊事業者の生産性の向上や観光客へのマナー啓発などを実施しました。

市民や事業者から、昼間に観光する場所がない、広報不足などの声が寄せられています。また、観光関連産業従事者の年収水準が低い状況にあります。

3 観光・MICEを取り巻く状況と新たな課題

(1) 福岡市の観光・MICEを取り巻く状況

入込観光客数・観光消費額	令和5年時点では、入込観光客数は2,309万人、観光消費額は6,192億となり、それぞれ過去最高を記録しました。
インバウンドの属性	令和6年時点で、福岡への外国人延べ宿泊者数のアジア地域が86.6%を占める一方で、欧米豪の割合は5.3%に留まっている状況です。
客室稼働率	宿泊施設の客室稼働率については、令和6年の年間平均が80.4%を記録するなど、観光客の増加に合わせ、高い状態が続いています。
MICE開催状況	国際会議件数は、令和6年時点で131件（JNTO基準）でコロナ禍前の水準に戻っていない状況にあるほか、外国人参加者数も約8割程度となっています。
今後開催予定の大規模イベント等	ホテルの開業や福岡空港ビジネスジェット専用施設の整備が予定されているほか、MICEの開催などが予定されています。

(2) 新たな課題や取り巻く状況の変化

観光客の来訪に対する市民満足度の低下

①
課題

インバウンドの急激な増加により、「市民が観光客を受入れることへの意向」が年々低下している状況です。また、インバウンドのマナー問題やゴミの投棄による景観悪化などを実感している件数が増加してきています。

観光関連産業の供給力不足・従事者の継続労働意欲の低下

②
課題

観光客の増加により宿泊業では、客室稼働率が高い状態が続いているなど、観光関連産業全体で人材不足などによる供給力不足のほか、従事者の働き続けたいとの気持ちが低い状況にあります。

観光客の受入環境の充実

③
状況
変化

福岡空港では空港活性化を目的とした設備投資が進められており、令和9年度に予定されている福岡空港ビジネスジェット専用施設の設置などにより、高付加価値旅行者が求める条件の一つであるスムーズな入国が可能となる見込みです。

4 第3期プログラムにおける取組みの視点

第2期プログラムにおける成果や課題、取り巻く状況の変化などを踏まえ、第3期プログラムにおいては、**福岡市の観光・MICEの持続可能な発展**を目指し、**質の高い観光と市民の満足度向上の両立**を図るため、次の5つの視点で取組みを進めていきます。

視点①	観光客の来訪に対する市民の満足度向上
視点②	観光関連産業の賃金上昇に向けた稼ぐ力の向上支援
視点③	量から質への更なる転換
視点④	質の高いMICE誘致及び地域への波及効果の拡大
視点⑤	地域資源の磨き上げによる昼間の観光の充実

5 取組みの方向性と主要施策

— 方向性と主要施策 —

施策概要

(1) 九州のゲートウェイ都市機能強化	①量から質への転換に向けた誘客促進	カントリーリスクを考慮し、幅広い国・地域からの誘客を目指して、西のゴールドルートの取組みによる欧米豪などへのプロモーションや高付加価値旅行者の誘客に取り組みます。	視点③
	②観光・MICE施設をはじめとする都市機能強化	ウォーターフロント地区におけるMICE施設の機能強化や質の高いホテル誘致に向けたプロモーションを実施するほか、来訪者のおもてなし空間の創出に取り組みます。	
	③ゲートウェイ都市機能を活かした周遊観光の推進	九州の自治体と連携し、福岡市を起点とする周遊ルートの形成やプロモーションに取り組み、福岡市への来訪機会の創出と九州全域の観光への貢献を図ります。	
(2) MICE都市としてのプレゼンス向上	①質の高いMICE誘致と地域への波及効果の拡大	シンボリックMICEなどの誘致やユニークベニューでの文化財の活用のほか、大学との連携強化による学会などの誘致・開催強化など、積極的なMICE誘致に取り組みます。	視点④
	②MICEにおける受入環境の充実	MICE開催時における受入環境の充実を図るほか、来訪者が安全・安心に過ごすことができる環境の充実を図ります。また、市民の学びや国際交流の機会創出、MICEへの関心や理解促進に取り組みます。	
	③SDGsへの貢献と都市競争力の向上	観光・MICE事業者へのSDGsの理解促進と取組みを支援し、都市間競争力の向上に取り組むほか、様々な国・地域からの来訪者など、多様な人が観光を楽しむことができる環境の充実を図ります。	
(3) 地域振興や市民生活の持続可能な観光	①地域資源などを活用した昼間の観光の充実	食文化やエンターテインメントなど、夜間の観光の充実に取り組むほか、市内の様々な地域の地域資源を磨き上げ、ストーリー性のある市内周遊ルートの構築などに取り組みます。	視点⑤
	②観光客の来訪に対する市民の満足度向上	市民にとっても利便性が向上する取組みや観光による経済効果などの情報発信による理解促進を図るほか、観光客のマナー改善など、観光課題への対応に向けて取り組みます。	視点①
	③観光関連産業の持続可能な経営の推進	観光関連産業の生産性向上などによる従事者の賃金上昇に向けた稼ぐ力の向上支援や魅力発信による多様な人材確保、やりがい向上に向けた取組みを推進します。	視点②

6 第3期プログラムの目標値

「①観光・MICE推進に係る成果指標」と 4 に記載の内容を踏まえた「②取組みの視点に対応する成果指標」の2つを設定し、(公財)福岡観光コンベンションビューローをはじめ、国や他の自治体、経済団体、地域の事業者等と連携しながら、実現に向けて取り組んでいきます。

① 観光・MICE推進に係る成果指標

成果指標	基準値	目標値
入込観光客数	2,309万人	2,600万人
外国人入国者数	390万人	480万人
観光消費額	6,192億円	9,700億円
国際会議開催件数（JNTO基準）	131件	300件
福岡市に来訪した観光客の満足度	88.4%	90.0%

② 取組みの視点に対応する成果指標

視点	成果指標	基準値	目標値
①	観光が重要な役割を果たしていると思う市民の割合	62.9%	70%
	観光客の来訪による混雑・マナー違反に迷惑していると思う市民の割合	55.9%	45%
②	賃金に満足していると答えた観光関連産業従事者の割合	※1 39.2%	45%
	観光関連産業で働き続けたいと思う従事者の割合	60.2%	65%
③	インバウンドの消費単価	8.4万円	10万円
④	国際会議への外国人参加者数	9,161人	15,000人
⑤	昼間にお勧めする観光があると答えた市民の割合	※2 91.2%	95%

※1：55.9%のうち、「やや迷惑している」は45.2%、「我慢ができない程度に迷惑している」は10.7%の回答
 ※2：複数回答方式で、主な回答は「食関連」：58.8%、「どんたくや山笠」：32.9%、「福岡タワー」：31.0% など